

事業評価シート（平成26年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	来館出来ない人への図書館サービス事業		
事業担当	社会教育部 中央図書館		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	感性 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	図書館に来館出来ない市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： ボランティア】		
	目的・目標		事業の概要
図書館へ来館出来ない人が読書の楽しみを知り、知る自由の保障が図られています。		図書館に来館できない人のために移動図書館車等を活用し、入所施設等への出前図書館等を実施します。また、障がいのある方に対して、郵送等により資料の貸出を行います。	

2. 事業の検証

活動指標	指標名	巡回回数(平成26年度まで)			単位	回	
	説明・算定式	児童施設や入所施設への巡回回数					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標	84	84	84			
	実績	76	75	63			
活動指標	指標名	目の不自由な方専用の蔵書冊数(平成26年度まで)			単位	冊	
	説明・算定式	デジター録音図書等(冊数は墨字本1冊分にあたるデジター録音図書を1冊としてカウント)					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標	100	130	160			
	実績	145	174	207			
活動指標	指標名	登録団体数(平成27年度から)			単位	団体	
	説明・算定式	幼稚園・保育所・ろう学校・老人福祉施設・地域文庫等の登録団体数					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標				80		
	実績						
活動指標	指標名	来館が難しい方の登録者数(平成27年度から)			単位	人	
	説明・算定式	視覚障がい等により図書館に来館が難しい方の登録者数					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標				25		
	実績						
成果指標	指標名	貸出点数(平成26年度まで)			単位	点	
	説明・算定式	移動図書館と出前図書館での合計貸出点数					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標	40000	40000	40000			
	実績	39841	37019	31547			
成果指標	指標名	訪問施設数(平成26年度まで)			単位	箇所	
	説明・算定式	幼稚園、保育所等					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標	15	15	15			
	実績	10	10	10			
成果指標	指標名	関係施設・団体への貸出回数(平成27年度から)			単位	回	
	説明・算定式	幼稚園・保育所・ろう学校・老人福祉施設等					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標				118		
	実績						
成果指標	指標名	来館が難しい方への貸出点数(平成27年度から)			単位	点	
	説明・算定式	視覚障がい者等への貸出点数					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標				200		
	実績						
進捗状況	： 予定どおり						
	遅れている理由						
平成26年度の主な取組と成果							
<p>出前図書館については、訪問施設数、巡回回数ともに減少しましたが、2公民館に返却ポストを設置し(合計9か所)、図書館に来館しなくても資料を返却できるように取り組みました。</p> <p>視覚障がい者への郵送貸出サービスについては、貸出件数は177点(平成25年度は264点、平成24年度は64点)で、前年比4倍となった平成25年度の約2/3となりました。</p>							
平成26年度の検証結果	B：おおむね成果があがった						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	移動図書館の個人利用者は、平成26年度に延べ8,597人あり、移動図書館車を活用したサービスは必要とされています。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	図書館から遠くにお住まいの方や、保育園等に通う子どもたちに対して、図書館サービスを提供することで、利用者の満足度を高めます。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	視覚障がい者サービスについては、利用者からの要望をもとに、貸出資料の対象や貸出点数を見直したことで、利用を増やすことができました。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	移動図書館の巡回については、ルートや停車時間の見直しにより、さらに効率的な運行を行える可能性があります。	高中低
今後に向けた課題の分析 図書館に来館しにくい方に対して、移動図書館車を活用して図書館サービスを提供することは、市民の読書活動を支援する上で有効です。利用する施設に合わせて貸出方法や支援の方法を工夫して、さらに利用しやすくする必要があります。障がい者サービスについても、利用者の希望により細かく応じられるよう努めます。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		移動図書館による施設等訪問貸出、目の不自由な方への郵送サービス	移動図書館による施設等訪問貸出、目の不自由な方への郵送サービス	移動図書館による施設等訪問貸出、目の不自由な方への郵送サービス	移動図書館による施設等訪問貸出、目の不自由な方への郵送サービス等
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	4,493	3,460	3,589	3,370
事業費 (A)		4,493	3,460	3,589	3,370
執行率 (%)		99.80	99.31	99.36	

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針 駐車スペースが無いことや、隣接道路が狭いなどの理由で、移動図書館車が敷地に入車できず、出前図書館サービスが受けられない施設に対するサービス方法等を検討し、団体の利用を増やします。
課長コメント 何らかの事情で図書館に来館できない方や図書館から遠い地域の学校・公民館に出向き図書の貸出を行い、また目の不自由な方への郵送サービスを実施することにより、知る自由の保障という目的に沿った事業を展開しています。今後も、スペース等の都合で移動図書館車が入車しづらい場所へのサービスなどについて、取組の拡大を検討します。